



企画・制作 八峯企画

公式ホームページ <http://shiawasenotane.jp/>

公式ブログ <http://shiawasenotane.jp/blog/>

facebook <https://www.facebook.com/tanetori>



～命をつなぐ、都会と田舎をつなぐ「タネ」の物語～

私たちが、毎日食べている野菜がどうやってつくられているか知っていますか？

普段手にする野菜の多くは、形も色も味もだいたいそろっていて、お店にきれいに並べられます。

重労働である農業を、少しでも効率よくし、沢山収穫できるように、

いろいろな病気や天候にも負けない育てやすいスマートな野菜が工夫されてきました。

その一方で、一見形は悪かったり、どこでも簡単に育つわけではないけれど、

栄養価が高く味も個性的で、各地で大切に受け継がれてきた伝統的な野菜は、次第に姿を消している・・・。

「講演会」に行くほどの関心がなくても、毎日、自分や家族、子どもたちが何を口にしているのか、

みんながもっとうまく知るきっかけをつくることできないか？と思ってつくったミュージカルです。

日本の各地で、地元でどんな野菜がどんな人たちの思いでつくられているのか、

毎回、公演地を取材し「ご当地バージョン」で上演し、あたたかい劇場を楽しんでいただいている「しあわせのタネ」。

あなたの町の公演では、あなたにも、あなたの大切な方にも、ぜひご覧いただきたい舞台です。

【脚 本】

坂口 理子（さかぐち りこ）

テレビドラマ、映画などの映像脚本や、舞台脚本、および、小説などを執筆。

テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞・優秀賞、『おしゃしゃのシャン！』で創作テレビドラマ大賞・最優秀賞、

WOWOWシナリオ大賞・優秀賞、第36回城戸賞など数多くの脚本賞を受賞。

主な作品に、高畑勲監督のスタジオジブリ映画『かぐや姫の物語』（2015年アカデミー賞ノミネート）、

ドラマ『おしゃしゃのシャン！』（2008年）『私が恋愛できない理由』（2011年）『結婚しない』（2012年）などの連続ドラマや、

小説『フロイデ！～歓喜の歌でサヨナラを～』、NHK連続テレビ小説『マッサン』（2014年）脚本協力、

NHK福岡放送局地域ドラマ「いとこの森の家」（第42回放送文化基金賞奨励賞受賞）など。

2017年夏公開の新作アニメーション映画『メアリと魔女の花』（米林宏昌監督）の脚本も担当。

2013年から2016年まで演劇プロジェクト・テトラクロマットに参加するなど、舞台作品にも意欲的に取り組んでいる。



坂口 理子（脚本）

2014年に舞台「しあわせのタネ」が産声をあげたとき、私はご挨拶の文章として、こう書きました。

『私たちが、いま普通に食べている野菜の多くが、一代限りで次世代に子孫を残すことができない……お恥ずかしいことながら、この舞台の脚本のお話をいただくまで、正直私はまったく知りませんでした。当たり前のように、作物は実がなったらその実から種を採り、それを蒔いて、また次の年に収穫するものだばかり思っていました。だけど、それが違った。今、私たちが食べているものは、そしてこれからの未来を生きる子供たちが食べていくであろうものは、かつて私たちの先祖が食べてきたものとは違うものなのだとすることを改めて知らされました。』（2014年ホームページ挨拶より）

そして、再演の2015年にはこんなことを。

『昨年一年間、私たちは『知る冒険』を続けてきました。新たな公演場所へ向かう度に取材を行い、脚本を書き変える。その土地、その土地に伝わってきたもの、新しく開発されたもの、今はなくなってしまったもの、そして今なお息づいているもの、それらを肌で感じ、体に取り込み、脚本に落とし込んでいく……それは本当に心躍る冒険のようでした。』（2015年公演パンフレットより）

そして2017年、また新たな冒険の船出です。あらためて考えました。命とはなにか、それをつなげていくとはどういうことなのか……。きっとそれは特別なことではないのでしょう、今まで多くの人々が当たり前と思って、ごく自然にやってきたことなのでしょう。だから当然、失われてしまうものもある、淘汰されてしまうものもある。これまでの旅で知り得たのは、あるものに出会うことであり、またあるものが失われてしまったことを知ることでありました。それがよいことなのか、悪いことなのか、もちろん答えは出ていません。それでも、知ることを続けなければならないことだけは確かです。

そして、こんなことを延々と続けていく、こうやって舞台を創っていくこともまた、何かをつなげていく大きな流れのひとつなのかもしれないと思ったりもする三回目のタネの夏です。本日はご観劇ありがとうございます。私たちと一緒に、成長する舞台「しあわせのタネ」という種を携えて『知る冒険』に旅立っていただけたら、本当にしあわせです。



増澤ノゾム（2017年より演出）

スーパーに行くはずらと並ぶ青々とした野菜も生き物、本来は個性豊かなはずです。実際、自然食品のお店に行くと、でこぼこした野菜たちが並んでいます。

この話は、そんな個性豊かなでこぼこした人たちが、でこぼこ言葉を交わすうちに、本当に大切なものに気づいて行く物語です。野菜の議論が、いつの間にか人の繋がりに……そして「命を紡いで行くこと」へ。観終わった後、少しでも幸せな気持ちになれば、そして帰り道に「いつもと違う野菜でも買って帰ろうな……」なんて、そんなちよつとした幸せと変化をもたらす舞台になれば、僕たちはとっても幸せです。

今から30年くらい前、私が学生だったころは、植物（野菜）の「いのち」なんて言えば、感傷的（センチ）だとからかわれる雰囲気がありました。

また文化の大切さを語れば、文化じゃ食えないよと忠告を受けたものです。

しかし時代の価値観は大きく変わりました。

「しあわせのタネ」で語られるものは、野菜のタネの話だけではありません。

私たちはお金で買うことができない「いのち」の時代に生きていること、いろいろないのちの支え合いによって生かされていることをはっきりと実感できます。笑い涙で「しあわせのタネ」の舞台をみれば、新しい時代の幕開けを感じることができるでしょう。

こんな素晴らしい舞台を創ってくださったスタッフの方々に感謝するとともに、ぜひ大勢の方々に観ていただきたいと思います。

江頭宏昌（山形大学 農学部教授）



毎回公演地に足を運び、取材をして現地の想いを台本に加味しています。
また、その取材時のことが各地で話題になっています。



2015年10月22日 木曜日 13版 28

全国公演中 食と命のあり方を問うミュージカル

鎌ヶ谷の農家取材しアレンジ

【鎌ヶ谷市】「食と命のあり方を問うミュージカル」が、全国公演中。鎌ヶ谷市出身の脚本家・坂口理子さんが、市内の農家を取材し、ミュージカルにアレンジした。脚本家・坂口理子さんは、市内の農家を取材し、ミュージカルにアレンジした。脚本家・坂口理子さんは、市内の農家を取材し、ミュージカルにアレンジした。

23・24日 市内で公演

「食と命のあり方を問うミュージカル」が、23・24日、市内で公演。脚本家・坂口理子さんは、市内の農家を取材し、ミュージカルにアレンジした。脚本家・坂口理子さんは、市内の農家を取材し、ミュージカルにアレンジした。

山形)在来野菜、舞台に生かす 脚本家の坂口さん、畑へ

2014年10月17日 03時00分

印刷 メール



後藤利子さん(右)から「緑かき」の説明を受ける脚本家の坂口理子さん(左)ら＝鶴岡市緑沢

在来野菜をテーマにした舞台「しあわせのタネ」の脚本を書いた坂口理子さん(42)らから、鶴岡市を訪れ、山形大学農学部の江頭宏昌准教授の案内で、在来野菜の畑を訪ねて歩いた。

坂口さんは映画「かくや姫の物語」(高畑勲監督)の共同脚本も手掛けている。舞台は全国上演中で、今月20、21日、鶴岡市中央公民館で開かれる鶴岡公演に先立ち、地元の在来作物を登場させる部分を脚本に加えるの

29年6月1日

この街 あの人この人

いちばらでの心温まる思い出を詰めて
脚本家 坂口理子さん



「小瀬緑道に暮るのが楽しかったです」

いちばらの自然で遊んだ子どもの頃
「小さい頃にいちばらの自然の中で学んだのは、命は巡るということ」
そう話すのは、スタジオジブリ制作のアニメーション映画『かくや姫の物語』や、この夏に全国公開されるアニメーション映画『メアリと魔法の花』などの脚本を手掛け、今や引っ張りだこの脚本家・

坂口理子さんです。坂口さんは、母親が市内の南総地区出身だったこともあり、休みになるといちばらをよく訪れていました。生まれが横浜の住宅街の坂口さんにとって、いちばらは最高の遊び場。山の中でピクニックを探ったり、タケノコを掘ったりして自然の中を走り回ることが大好きだったそうです。

里山が教えてくれたこと

坂口さんは、学生時代から演劇に励み、映像会社へ入社しました。その後、「人に何かを伝えたい」という思いの下、演劇と映像に共通する脚本の道へ進みました。脚本家として活躍する現在も、いちばらでの思い出は坂口さんに大きな影響を与えています。「花が枯れ、種が落ちて、そこからまた芽が出て…里山で遊ぶ中で、おのずと自然の摂理を学びました」と話します。

舞台を通じて気持ちを伝える
そんな坂口さんが脚本を手掛けた舞台



「しあわせのタネ」が、7月1日(土)に市民会館で上演されます。この舞台は、食と命をテーマにしたミュージカル。坂口さんが精力的に市内を取材したこともあり、劇中では加茂菜などのいちばら特有の野菜も登場し、オリジナルのストーリーが楽しめます。「しあわせのタネ」は、結婚式が舞台のあめでたい話です。同時に涙らず、親戚の結婚式に来るような気持ちで見に来てください。見終わった後には、きっと心の中に幸のタネが芽生えているはずです。

舞台「しあわせのタネ」
日時 7月1日(土)第1部＝午後2時
第2部＝午後6時開演
料金 前売り＝3,500円、当日＝4,000円
申込方法 窓口か電話で申し込む。
申込・問合先 市民会館チケットセンター
☎ 0570(043)043

10月から全国展開

しあわせのタネ 山梨で初公演

「しあわせのタネ」は、どこから来るのか、どこへ行くのか、というテーマで、10月には山梨県で初公演が行われます。山梨県は、在来野菜の宝庫です。山梨県は、在来野菜の宝庫です。山梨県は、在来野菜の宝庫です。

農家役で上條恒彦さん熱演

「しあわせのタネ」は、どこから来るのか、どこへ行くのか、というテーマで、10月には山梨県で初公演が行われます。山梨県は、在来野菜の宝庫です。山梨県は、在来野菜の宝庫です。山梨県は、在来野菜の宝庫です。

在来種の「ドラマ」舞台に



2017年の舞台写真



劇場ロビーではマルシェを開催→